



作野 桂子 議員
SAKUNO Keiko

町長の教育ビジョンが不明確なのは残念。子どもの生きる力を育むまちづくりを望む。

安心して最期まで暮らせるまちへ

Q エンディングノートのさらなる普及策はあるのか。

A 誰でも無理なく取り組める新しいノートを検討中で、秋頃に配布見込みである。また、書き方や終活全般について学べる講座も令和8年2月頃の開催を目指している。

Q 希望する人がエンディングノートや遺書の保管場所を登録できる仕組みを検討してはどうか。

A 保管場所などは重要であると認識しており、調査研究していく。

災害時要支援者の個別避難計画は

Q 現在、福祉部門との連携が十分で非効率な状態である。町長が主導し、全庁的に現実的で持続可能な個別避難支援体制を構築するべきで

はないか。

A 庁内の関係部局や関係機関としっかり連携し、体制の構築に努める。



教育長の選任は

Q 町長は、どのような教育を進めていきたいと考えているのか。目指すビジョンは何か。

A 第5次総合計画後期計画の基本目標として「いきいきとした豊かな心を持った人を育むまち」を掲げており、そつした教育を進めていきたい。

Q 特に重視している課題とふさわしい教育長像とは。

A 子どもたちが多様な社会環境や変化に柔軟・適切に対応できる資質を育むことが重要である。教員を統括し、リーダーシップを発揮できる教育長を選任したい。

豊山町臨空第二公園の見直しを



熊沢 直紀 議員
KUMAZAWA Naoki

机上だけの計算を基にした事業は検討不足。過去の事実を検証し、的確な判断で事業を行うべき。

Q 平成12年の東海豪雨活動記録は、豊場地区の避難者は、ほとんどが富士供用施設に避難し、延べ避難者数は51人であった。一方で、総合福祉センター北館「さざんか」はこの東海豪雨時においても避難者数は0人であった。

外水氾濫のハザードマップでは、豊場東部地区や青山北部地区は、地盤が高く、被害は極めて限定的である。

東海豪雨後の過去19年間の避難者数では、豊場地区63人、青山地区27人であった。また、南海トラフ地震発生時の豊山地域防災計画資料編によれば、豊山町全体で、1日後の避難者数は約50人、1週間後の避難者は1300人となっている。「さざんか」の収容能力で事足りる。

700人ももの避難者数を満たすアリ

一ノ建設は異常である。計画の全面的な再検討が必要と考えるがどうか。

A 諸経緯を経て、コロナ禍や過去の災害地への対策事例も勘案しながら進めてきたので現時点では変更はしない。しかし、実際の整備にあたっては、経済状況や財政状況などを勘案し、慎重に事業を進めて行く。

スカイプール再開に向けて

Q タウンミーティングの開催日時、再開に向けた入場料改正条例案の提出、指定管理者の決定時期、プール改修費用の見積もり実施時期は。

A タウンミーティングは8月に4回行う。日程は未定、入場料の改正は今年度中、指定管理者の決定は未定、プール改修費用の見積もりは未定、令和8年度開場を予定している。

